平成六年度

資料調査報告書　第二十二集

―旧鳥取藩士山田家資料―

鳥取県立博物館

序にかえて

資料調査報告書第二十二集では、「旧鳥取藩士山田家資料」について報告・紹介する。

山田家は、享保年間に初代孫兵衛が鳥取藩に召し出され、四代頼実の時廃藩を迎えた。とりわけ頼実は、御近習や御目付・武器奉行などを勤め、実務派官僚として活躍した。本資料中の頼実の残した日記類は、鳥取藩幕末史を研究する上で貴重な資料である。

末尾ながら、本館の事業を御理解いただき、資料を寄贈していただいた山田家に対し、感謝申し上げる次第である。

平成七年三月三十一日

鳥取県立博物館長

國岡靖夫

目次

序にかえて……1
目次……1
Ⅰ 旧鳥取藩士山田家資料目録……2
Ⅱ 解題……12
1 旧鳥取藩士山田家について
2 山田家資料について
Ⅲ 資料写真……16
あとがき……21

Ⅰ 旧鳥取藩士山田家資料目録

旧鳥取藩士山田家資料一覧

Ⅰ	家	19点
Ⅱ	役儀（御祐筆等関係）	61点
Ⅲ	役儀（明治維新関係）	118点
Ⅳ	武道・武具	20点
Ⅴ	教養・教育	39点
Ⅵ	諸家判物（花押コレクション）	28点
Ⅶ	書　軸	3点
Ⅷ	肖像写真	27点
Ⅸ	歴史資料	6点
	合計	321点

番号	資料名（内容）	作製者・請取人	年代	形態	数量
Ⅰ	**家**				
1	〔山田新九郎幸長家筋書上写〕		享保八年十一月	切紙	一通
2	〔山田武兵衛奉公書上控〕	〔山田武兵衛〕	享保十一年九月	一紙	一通
3	〔山田孫兵衛家筋書上控〕	〔山田孫兵衛〕	寛政頃	一紙	一通
4	〔山田孫兵衛御役御免達書〕		（安永元年）	切紙	一通
5	〔山田左平太御書役転役達書〕		（寛政六年）	切紙	一通
6	〔山田左平太家督相続達書〕		（寛政十一年）	切紙	一通
7	〔山田左平太加増達書〕	（都合五十俵六人扶持に）	（享和三年）	切紙	一通
8	〔山田孫兵衛江戸御奉公御免願控〕		申年六月	切紙	一通
9	〔山田孫兵衛新知拝領願控〕		酉年二月	切紙	一通
10	〔宗門改誓詞〕	山田孫兵衛	野間鹿蔵他三名		
	（御目付）宛		文化十一年九月	切紙	一通
11	〔宗門改誓詞〕	山田孫兵衛	野間鹿蔵他二名		
	（御目付）宛		文化十二年九月	切紙	一通
12	〔山田恒蔵家督相続達書〕		（文政二年）	切紙	一通
13	〔山田平蔵英俊院御法事参候願〕	山田平蔵			
	矢野助之進宛		天保三年三月四日	一紙	一通
14	〔山田佐次郎家督相続達書〕		天保八年十二月二十二日	切紙	一通
15	〔山田佐次郎御小姓仰付達書〕		安政三年六月二十六日	切紙	一通

16	〔山田孫一惣髪願〕	山田孫一	明治三年正月十七日	一紙	一通
17	山田佐次郎書状（御縁組相整、本日三日入込云々）				
	おみつ宛		十一月十七日	巻子	一巻
18	遠藤家系図（鳥取藩士遠藤恒家）		安永頃	巻紙	一巻
19	〔浦上政宗文書六通〕（遠藤弥八郎関係）		天文―弘治年間	巻子	一巻
Ⅱ	**役儀（御祐筆等関係）**				
20	忠勤日記	山田頼尚	享保十七年―寛政十一年	竪帳	一冊
21	御初入御供立御役附（池田吉泰御初入行列順序）				
	為頼・為重		宝永元年八月二十八日	小横帳	一冊
22	〔徳川吉宗将軍宣下之宣命写〕		享保元年初秋月	一紙	一通
23	〔武家伝奏書状写〕（即位之節献上御満悦の旨）				
	公文・兼胤	松平相模守宛			
			宝暦十三年十一月七日	一紙	一通
24	〔公用書状書留〕（対幕府関係）		明和頃	小横帳	一冊
25	御道中披露日記（鳥取より関ヶ原迄）	勝如			
			安永四年八月朔日	小横帳	一冊
26	〔公用書状書留〕（家中関係）		天明頃	小横帳	一冊
27	諸聞書覚（御勘定所関係）		寛政三年十月	小横帳	一冊
28	寛政七乙卯年八月洪水之一件	山田頼尚		竪帳	一冊
29	丞姫様御婚礼之式		寛政七年五月十五日	横半帳	一冊
30	〔御宗門書上写〕（切支丹改怠りなく行う旨の届）				
	松平相模守　松浦越前守・井上美濃守宛				
31	淑姫君様御入輿献上御品書		寛政八年十月	一紙	一通
32	御行列書（英俊院葬列順序）		寛政十一年八月	横帳	一冊
			文政九年三月二十三日	小横帳	一冊
33	慶行公御大変日記	山田頼実	嘉永元年六月	竪帳	一冊
34	大機院様御遺物被進之御目録（諸大名への形見分）			切紙	一通
35	〔元和元年武家諸法度写〕			巻紙	一巻
36	〔武家諸法度写〕		延享三年三月二十一日	巻紙	一巻
37	〔家中御法度写〕		天明五年二月	巻紙	一巻
38	〔奉公人法度写〕		正月	巻紙	一巻
39	〔御徒方御定写〕		三月	巻紙	一巻
40	〔城近辺出火之節御定控〕		閏四月	巻紙	一巻
41	〔家中倹約令写〕			巻紙	一巻
42	〔岱嶽院様遺領無相違之旨通達御意書写〕			巻紙	一巻
43	〔物成弐歩通り御返し仰出書写〕				
			明和五年九月二十七日	巻紙	一巻
44	文言集上（幕府宛書状文案）			横半帳	二冊
45	目録集（幕府宛目録先例集）			横半帳	一冊
46	諸案紙控（書状例文集）			横半帳	一冊
47	手控（諸家宛書状控）		宝暦頃	小横帳	一冊
48	古案抜書御書役手控		明和六年写	小横帳	一冊
49	〔公用書札例文〕			小横帳	一冊
50	〔太刀進上目録手本〕			折紙	一通
51	手負討死注文書様之事			一紙	一通
52	弘安條目書礼式抜書			小横帳	一冊

53 松葉集（小姓公用申送覚書） 山田頼実 安政五年 小横帳 一冊
54 雑記写（対幕府関係公用書状留） 小横帳 一冊
55 御道中勤仕録附り諸事申合之事 山田頼実 小横帳 一冊
56 密書（御目付服務規定） 享保頃 小横帳 一冊
57 産所墓目覚書（出産時の弓矢祈祷法） 山田頼実 元治元年写 竪帳 一冊
58 当時御装束略記 山田頼実写 元治元年九月 竪帳 一冊
59 秘録（江戸詰中勤務規定） 横半帳 一冊
60 〔近習心得書〕 小横帳 一冊
61 諸図式（着座家・諸社寺等訪問の際の通路図） 小横帳 一冊
62 〔鳥取城諸施設ニ付覚書〕 切紙 一通
63 軍役并諸々路銀御渡し定 活幸 小横帳 一冊
64 〔家中への下賜品書上〕 横半帳 一冊
65 〔諸大名旗印書上〕 竪帳 二冊
66 道中記（鳥取－江戸間里程表） 小横帳 一冊
67 東海道道中記（鳥取－江戸間里程表） 扇面 一枚
68 甲州道中記（江戸・濃州大久手間里程表） 折本 一冊
69 木曽路道中記（鳥取－江戸間里程表） 扇面 一枚
70 江戸より中山道・甲州路道中記大略 扇面 一枚
71 〔母木・多里間里程図〕 一紙 一枚
72 御代々御法号御歳御寺附 宝暦年間 横半帳 一冊
73 〔因伯郡村名書上〕 小横帳 一冊
74 因伯郡村名 山田頼尚 寛政六年十一月 竪帳 一冊
75 類帳いろはせめ近附名前 山田 安永四年七月 小横帳 一冊
76 〔鳥取藩士名簿〕 小横帳 一冊
77 御城詰御役人御礼席 （文化十年頃） 小横帳 一冊
78 御礼席順書 山田 元治元年八月 小横帳 一冊
79 山崎九之亟旧功書（池田家中となるまで） 巻紙 一巻
80 松平壱岐守書状反古（裏に元禄十一年山田七之助習字） 一紙 一枚

Ⅲ 役儀（明治維新関係）

81 日記壱（御目付勤中日記） 中島嘉吉 嘉永二年閏四月十七日－同八月十四日 横半帳 一冊
82 日記抜書 養拙軒荘（山田頼実） 嘉永五年－七年 横半帳 一冊
83 在府御小姓勤中日記・在府勤中日記合冊 安政三年六月二十六日－同五年正月十三日 横半帳 二冊合冊
84 勤中公私日記 養拙軒荘 安政五年二月五日－同六年九月 横半帳 一冊
85 公私日記 養拙軒荘 安政六年九月十九日－万延元年四月 横半帳 一冊
86 公私日記 養拙軒荘 万延二年正月元日－十四日 横半帳 一冊
87 日記 養拙軒荘 文久元年四月十四日－同二年九月十五日 横半帳 一冊
88 公私日記 山田（頼実） 文久二年十二月四日－同三年三月二十三日 竪帳 一冊
89 日記（山田頼実） 文久三年三月二十三日－十二月 竪帳 一冊

90 日記 山田頼実 文久四年正月元日－九月九日 竪帳 一冊
91 日記 養拙軒 元治元年五月八日－十月十日 横半帳 一冊
92 日記 山田頼実 元治元年十一月二十四日－同二年十二月二十九日 竪帳 一冊
93 日記 山田頼実 慶応二年正月元日－十二月晦日 竪帳 一冊
94 日記（山田頼実） 慶応三年正月元日－十月十二日 横半帳 一冊
95 御目付勤中日記 養拙軒 慶応三年十一月三日－同四年六月十八日 横半帳 一冊
96 出張中日記（西園寺殿同行） 山田頼実 慶応四年二月十四日－三十日 横半帳 一冊
97 日記 山田頼実 明治二年正月二十六日－二月十三日 横半帳 一冊
98 神務局中日記 山田頼実 明治二年十二月二十二日－同三年四月晦日 横半帳 一冊
99 〔日記〕（山田頼実） 明治三年五月朔日－九月二十五日 横半帳 一冊
100 存意書（山田頼実） 横帳 一冊
101 〔某忠次郎亜人使節見聞書付〕 巳（安政四）年十月十五日 切紙 一通
102 亜墨利加人風聞記（安政四－五年） 山田頼実 横半帳 一冊
103 安政七年庚午三月三日桜田一件実録 竪帳 一冊
104 安達清一郎書状（小生進退の事、拝借金の事） （安達）清一郎 山田（孫兵衛）宛 （慶応二年カ）十月二十六日 巻子 一巻
105 秋山豊之助書状（京都事情報告） （秋山）豊之助（山田）孫兵衛宛 （慶応三年）正月十四日 巻子 一巻
106 覚書（広島出張日記） 養拙軒（山田頼実） 元治元年八月 横半帳 一冊
107 道中記（松江・浜田・津和野行） （山田頼実） 元治元年十月十四日より 横半帳 一冊
108 子十二月米子御滞陣中京都留守居より御側役へ差越候書面抜書 （元治元年） 竪帳仮綴 一冊
109 端筆集（鳥取より各地への旅程、元治元年諸侯への使者相勤候節之覚） （山田頼実） 小横帳 一冊
110 秘録（諸建白・風聞等書抜） 元治二年頃 竪帳 一冊
111 浜坂合隊之次第 山田頼実 元治二年三月二十五日 一冊
112 雑説付留メ（京都・広島事情） 慶応元年四月 横帳 一冊
113 御進発御道中御休泊付 山田（頼実） 慶応元年十一月 小横帳 一冊
114 国事秘記 養拙軒 慶応元年正月－十月 竪帳 一冊
115 御小納戸勤中掌中秘記 慶応二年五月 小横帳 一冊
116 岡尾朋之丞・杉山七郎於周布村応接書取（安場七郎届書写） 慶応二年七月 竪帳 一冊
117 御武器役所諸役人勤向定 慶応三年十月 横半帳 一冊
118 要秘録（御目付勤中日記） 山田頼実 慶応四年正月－九月 横半帳 一冊
119 御目付勤中備忘録 山田頼実 慶応三年十一月二十四日 小横帳 一冊

120 触口帳其外付込　山田頼実　慶応三年十一月　小横帳　一冊
121 徳川慶喜建言写　慶応三年十二月二十日　竪帳仮綴　一冊
122 〔将軍様より御奏聞之御書付他写〕　明治元年　竪帳　一冊
123 御誓文大意（五箇条の御誓文解説）　慶応四年四月　巻紙仮綴　一冊
124 〔下総・野州辺戦争之一条〕　慶応四年四月　竪帳仮綴　一冊
125 〔徳川慶喜処分六ヵ条写〕　慶応四年四月　横半帳　一冊
126 四宮要之助関東より罷帰候節御家老内書写シ　慶応四年閏四月　横半帳　一冊
127 仙台侯建白写　（慶応四年）閏四月　竪帳仮綴　一冊
128 〔慶応四年四月頃江戸事情〕　横半帳　一冊
129 〔慶応四年三月十日仙台侯布告書并建白書写〕　横半帳　一冊
130 東国書翰要用之奥抜写（国事関係書状・建白写）　（慶応四年）閏四月　竪帳　一冊
131 江戸探索書（国事関係書状・建白等写）　（慶応四年六月頃）　竪帳　一冊
132 長州侯奉勅始末癸丑以降之次第　竪帳　一冊
133 卑懶（池田慶徳建白写）　竪帳　一冊
134 太政官日誌抜粋　明治元年　竪帳　一冊
135 太政官日誌写（官制等級）　明治四年八月　竪帳　一冊
136 御武器役所御役人并職人迄記　慶応四年四月　小横帳　一冊
137 御武器役所御役人并職人迄記　明治二年三月　小横帳　一冊
138 貨幣方御役人并在町懸り之物其被遣写　明治二年十月　小横帳　一冊
139 （139～173まで一括）
宮脇始メ御所置之事件ニ付孫兵衛関係之始末概略
140 ヲ記ス
杉浦万之丞書状（山田）孫兵衛宛　明治二年　横帳　一冊
141 杉浦万之丞書状（山田）孫兵衛宛　（明治二年）正月十日　切紙　一通
142 杉浦万之丞書状（宮脇・佐分利隊に謹慎仰付）　（明治二年）正月十一日　切紙　一通
143 山田孫兵衛宛
某与十郎書状（山田）孫兵衛宛　（明治二年）正月十一日　切紙　一通
144 杉浦万之丞書状（山田）孫兵衛宛　（明治二年）正月十三日　切紙　一通
145 杉浦万之丞書状（山田）孫兵衛宛　（明治二年）正月十三日　切紙　一通
146 伊良子為之進用状　山田孫兵衛宛　（明治二年）正月二日　切紙　一通
147 栗田覚介・牧野七平用状（和田壱岐帰国の報）
山田孫兵衛宛　（明治二年）正月二十日　切紙　二通
148 某与十郎書状　山田孫兵衛宛　（明治二年）二月十二日　切紙　一通
149 河合源太夫書状　山田孫兵衛宛　九月二十七日　巻紙　一巻
150 安場七郎建白（他大藩の如く外国交易を望む）　切紙　一通
151 〔西川文五右衛門建白〕（罪人林三郎に厳科を望む）　切紙　一通
152 〔監察役ニ付き建白〕　切紙　一通
153 〔家中退身者処置に付き建白〕　切紙　一通
154 〔産物方ニ付き建白〕　切紙　一通

155 〔新国隊編立通知〕　（明治元年）四月　切紙　一通
156 〔町会所法度案〕　切紙　一通
157 御弓徒御法式・苗字付御法式（振替相続規定）　切紙　一通
158 九月十一日与兵衛出立之節源内へ相送り候様書状　切紙　一通
159 〔近藤類蔵組内病気者帰国伺〕　切紙　二通
160 〔四宮郡司隊行列書〕　切紙　一通
161 〔兵隊中平病人・手負人書上〕　折紙　三通
162 〔戦死負傷者書上〕　切紙　一通
163 〔戊辰戦功者処遇書上〕　折紙　一通
164 〔棒鼻より城内・尚徳館ニ至る行軍次第他〕　切紙　三通
165 微細帳（戊辰戦派兵人員書上）　（明治元年正月）　横帳　一冊
166 武器奉行宛達書（当年武器製造の御銀の事）　切紙　一通
167 〔軍服規定達書〕　（明治元年）　切紙　一通
168 〔軍務出夫役に付き建白控〕　切紙　一通
169 〔美作国之内七万石御預所通達写〕　七月　切紙　一通
170 〔凱陣兵隊御目見式次第〕　（明治元年）　切紙　一通
171 〔山陰道鎮撫使旅程書付〕（鳥取米子間）　（明治元年二月）　切紙　一通
172 〔宮脇・佐分利隊勝手引取に付、処分達書草稿〕
軍式方　（明治二年正月）　切紙　一通
173 〔宮脇・佐分利並組士へ仰付候草稿〕　（明治二年正月）　切紙　一通
（174～187まで一括）
174 諸隊名前　横帳　一冊
175 〔諸足軽へ仰渡書付写〕　切紙　一通
176 〔足軽諸番所書付〕　切紙　一通
177 〔諸隊・小廻り組ニ仰渡書付写〕　切紙　三通
178 〔諸足軽へ仰渡書付写〕（足軽等の処遇）　切紙　三通
179 〔諸隊帰着者届〕　（明治元年）十二月　切紙　七通
180 道丸八郎用状（奥州出張兵帰着）　（明治二年）正月八日　切紙　一通
181 〔諸隊帰着時、病気と称し引取之一件〕　（明治二年）　切紙　一通
182 〔軍式方苗字付・足軽之事〕（松波隊処遇）　切紙　四通
183 〔永田秀蔵隊死傷者戦功者書上〕　切紙　四通
184 〔壱番隊戸崎久右衛門配下名簿〕　切紙　一通
185 〔壱番隊尾崎啓次郎配下名簿〕　切紙　一通
186 〔徴兵処遇関係一括〕　切紙　五枚
187 〔軍式方関係切紙一括〕　切紙　一五枚
188 公用控（神務局）　山田頼実　明治三年　小横帳　一冊
189 神務懸御届書写（当寮融通金について）　明治四年　切紙　一通
190 式官社概見（神社・神職氏名書上）　小横帳　一冊
191 式社官社概見（因伯二国式社官社書上）　小横帳　一冊
192 諸祝詞（宇倍神社大嘗祭他諸祭の祝詞）　明治四年　横半帳　一冊
193 〔宇部神社関係書類写〕　明治六年　竪帳　一冊
194 〔宇部神社諸伺控〕　権宮司山田頼実　明治九年頃　竪帳　一冊
195 〔中臣祓他祝詞写〕　寛政十一年二月　折本　一冊
196 〔鳥取県布告写〕　明治六年頃　竪帳　一冊
197 〔戸長関係書類写〕　明治十二年　竪帳　一冊

198 借受作証用紙（小作証文） 明治 一紙印刷 一枚

IV 武道・武具

199 日置流弓前書之事 小橋兵左衛門 山田左平太宛 安永四年二月 巻子 一巻

200 法性（東軍無敵流棒術伝書） 上田辰三郎 山田恒蔵宛 文政三年正月 巻子 一巻

201 法性（東軍無敵流棒術伝書） 上田辰三郎 山田平蔵宛 文政四年正月 巻子 一巻

202 理方得心流撃刀初段心法 十街斧之丞 山田左次郎宛 嘉永四年十一月 巻子 一巻

203 日置流弓頭書之事 尼子庄右衛門尉貞信 山田佐次郎宛 嘉永六年正月 巻子 一巻

204 當流初段第一（理方得心流馬術） 辻斧之丞秀実 山田佐次郎宛 嘉永七年正月 巻子 一巻

205 理方得心流刀術目録 切紙 一通

206 〔弓術雑覚書〕 切紙 四通

207 御流儀御合図指掌 山田頼実 小横帳 一冊

208 図形之戦略（兵法書） 小横帳 一冊

209 岩井家伝鎧腹巻胴丸図式 宝永五年五月 巻紙 一巻

210 本式鎧名所図式 巻紙 一巻

211 前立・鍬形図式 巻紙 一巻

212 旧器図式（頬当・利剣・鍬要・臆当・金具） 巻紙 一巻

213 旧製冑図式 巻紙 一巻

214 鞘巻略式太刀正図三 巻紙 一巻

215 空穂並矢籠正図二 巻紙 一巻

216 軍鞭正図 巻紙 一巻

217 再拝軍配図毛沓之図 巻紙 一巻

218 刀剣図考目録 栗原孫之丞信充蔵版 天保十四年三月 小横帳 一冊

V 教養・教育

219 嚢捜（山田氏見聞雑記） 山田氏 寛政頃 横半帳 一冊

220 伊丹家之事・前田直左衛門之事・宮城勝左衛門家事・倉吉詰之事 横半帳 一冊

221 三家一休講談全（仏教道話） 山田氏写 天保六年正月写 横半帳 一冊

222 徹心矩筆録（諸逸話等抜書） 有人翁 寛政七年睦月 横半帳 一冊

223 松平崇宗開運録 山田武兵衛尉頼武写 享保十四年九月十五日写 竪帳 一冊

224 河内守様御仁置百首（池田清定道歌集） 山田氏写 明和七年十月写 竪帳 一冊

225 御百箇条（東照宮御遺状） 山田頼尚写 寛政九年五月写 竪帳 一冊

226 東照宮御遺訓 上・下 竪帳 二冊

227 東照宮御文書写 二月二十五日 巻紙 一巻

228 四戦記聞附録（姉川・三方原・長篠・長久手） 竪帳 一冊

229 〔物語書写〕（柳沢吉保に関する逸話） 横半帳 一冊

230 江戸麹町下駄屋甚兵衛願書之写（経済政策建言）

231 白川侯御心得書写 山田氏 原本天明十年六月十七日 竪帳 一冊

232 正気集（諸藩草莽時勢漢詩文集） 会沢正志斎・ 竪帳 一冊

233 景山定之他 竪帳 一冊

234 復古論 元治元年十月 竪帳 一冊

235 都仁志喜 木版横半帳 一冊

236 細川物語（板倉修理病気本復之事他七件） 竪帳 一冊

237 奥州かたき討物かたり（仙台女敵討） 竪帳 一冊

238 十二支之伝 竪帳 一冊

239 女武勇上・中 竪帳 二冊

240 豫美考証（黄泉の国の考証） 大学中博士平玄道 明治三年 木版竪帳 一冊

241 本朝千字文 山田定次郎写 明治十年八月三十一日写 竪帳 一冊

242 〔連歌書〕 千翁 竪帳 一冊

243 新百人一首（足利義尚撰） 山田頼尚写 横半帳 一冊

244 絵入西行撰集抄九 江戸日本橋みすや又右衛門刊 元禄十四年十一月 木版竪帳 一冊

245 〔志翠・鋤雲・不周連歌書〕 竪帳 三冊

246 古今和歌集序（清水貞固より伝授） 山田氏 天明三年八月写 横半帳 一冊

247 當流算梯巻之二 竪帳 一冊

248 當流算梯巻之三 山田頼実写 竪帳 一冊

249 初登山手習教 一紙 一枚

250 〔女手習字手本〕（下山安兵衛手本を写ス） 宝暦六年三月 巻紙 一巻

251 女年中行事躾方抜書 横半帳 一冊

252 実語教（五言詩による教訓集） 芳林舎写 横半帳 一冊

253 文家必用抜書（難字解説） 横半帳 一冊

254 抜書聞書（難字読方いろは順） 豊盛 享保六年三月 横半帳 一冊

255 〔習字手本〕（書状例文集） 折本 一冊

256 〔小川助次郎習字手本〕（書状例文） 折本 一冊

257 温泉考（岩井郡湯村） 六角図書源敦郷 延享二年五月十五日 一紙 一枚

VI 諸家判物（花押コレクション）

258 雑（象に関する書付） 切紙 一枚

259 池田清定書状 池田新蔵宛 七月十九日 折紙 一通

260 松平丹後守光茂書状 松平壱岐守宛 十月晦日 折紙 一通

261 池田斉稷書状（端午之嘉儀） 池田吉之丞宛 五月三日 折紙 一通

262 松平薩摩守書状写（国元へ下向） 土岐丹後守宛 切紙 一通

263 曽我播磨守書状（尊札之礼） 正月二十三日 切紙 一通

264 松平阿波守書状（初陽之嘉儀） 加藤金右衛門宛 正月二十日 切紙 一通

265 松平丹波守宗教書状（年序之嘉事） 池田能登宛 二月五日 切紙 一通

266 松平出羽守宗衍書状（年甫之嘉事） 荒尾大和・ 二月十六日 切紙 一通

同志摩宛

266 大石寺日周書状（若殿様御家督御究の祝儀）　十二月二日　折紙　一通
荒尾志摩宛
267 松平丹波守宗教書状（寒中尋向）　池田能登宛　正月十五日　切紙　一通
268 阿部豊後守正武書状（御札御礼）　松平伯耆守宛　十一月二十二日　切紙　一通
269 松平大和守直矩書状（改年之御慶）　正月三日　切紙　一通
270 池田綱清書状（婚礼相済）　福田和泉宛　卯月十一日　切紙　一通
271 池田光仲書状（端午之嘉儀）　福田和泉宛　三月四日　切紙　一通
272 池田光仲書状（歳暮之祝儀）　福田兵部宛　十二月晦日　切紙　一通
273 松平丹波守宗教書状（新暦之嘉儀）　津田周防宛　四月二十三日　切紙　一通
274 松平阿波守重喜書状（暑中伺の礼）　津田若狭・乾甲斐・乾対馬宛　八月朔日　切紙　一通
275 南部主税政信書状（寒中伺の礼）　松平伯耆守宛　十二月二十七日　切紙　一通
276 大石寺日教書状（勝五郎様御機嫌能く恐悦）　池田能登宛　六月十二日　折紙　一通
277 松平下総守忠刻書状（暑中見舞御礼）　津田周防・鵜殿縫殿助・乾甲斐宛　八月二十二日　一紙　一通
278 鳥取藩家老連署状（大殿様御機嫌克、当地別条無し）　荒尾伊豆・鵜殿和泉・荒尾志摩

279 書判折紙（山田氏）　六月二十五日　折紙　一通
280 書判（実の字）　文化丙子（十三）年　折紙　一通
281 御判形型紙（池田斉稷書判）　切紙　一通
282 〔書判切抜一括〕（諸大名家書状より切抜）　型紙　一袋
283 〔僧侶書判〕　三十二枚
284 某和歌色紙　一枚
285 内藤丹波守様家来福寿軒徳翁百二歳之筆　色紙　一枚
天明二年　懐紙　一枚

Ⅶ 書軸

286 池田輝知一行書　軸　一幅
287 池田輝知一行書　軸　一幅
288 名和公碑拓影　軸　三幅対

Ⅷ 肖像写真

289 池田輝知　写真　一枚
290 池田慶徳・三麿・六麿　写真　一枚
291 大隈重信　写真　一枚
292 各国王帝集　写真　一枚
293 江藤新平　写真　一枚
294 岩倉具視　写真　一枚
295 山縣有朋　写真　一枚
296 勅宣真影　写真　一枚
297 西郷従道　写真　一枚

298 三条実美　写真　一枚
299 松平出羽守（定安）　写真　一枚
300 勝安房守（海舟）　写真　一枚
301 明治天皇（睦人親王）　写真　一枚
302 大久保利通　写真　一枚
303 会津肥後守（松平容保）　写真　一枚
304 不明人物　写真　一枚
305 江藤新平梟首写真　写真　一枚
306 福沢諭吉　写真　一枚
307 板垣退助　写真　一枚
308 一橋殿（徳川慶喜）　写真　一枚
309 徳川亀之助　写真　一枚
310 小室信介　写真　一枚
311 皇后宮美子　写真　一枚
312 明治天皇　写真　一枚
313 秋山忠直　写真　一枚
314 明治天皇・皇后　写真　一枚
315 不明男女　写真　一枚

Ⅸ 歴史資料

1 三ツ葉葵紋付小袖　一点
2 三ツ葉葵・揚羽蝶紋茶碗　一点
3 揚羽蝶紋付朱塗盃　一点
4 揚羽蝶寿字蒔絵朱塗盃　一点
5 揚羽蝶紋盃（藩祖三百年祭記念）　一点
6 朱塗盃（松波楼・拝領品）　一点

合計　三二一点

Ⅱ 解　題

1　旧鳥取藩士山田家について

本資料を伝えた旧鳥取藩士山田家は、享保年間に召し出された山田孫兵衛を初代とし、二代左平太、三代恒蔵、四代頼実と続いて廃藩を迎えた。本資料の性格を理解するため、山田家の歴代について、当館所蔵鳥取藩政資料中の「山田頼実家譜」と、本資料中に残された資料から概観する。

山田家の**初代孫兵衛頼尚**は、本家山田武兵衛家の願いにより、享保一七年（一七三二）四月一九日御徒に召し出されている。初代孫兵衛が本家とした山田武兵衛家も、宝永元年（一七〇四）に武兵衛の父茂治郎の勤功によって徒として召し出された家であり、またその父茂治郎も延宝三年（一六七五）に御掃除坊主として召し出され、後に還俗して徒となった人物である。鳥取藩の家中は大きく分けて、騎馬が許される士身分と徒歩の徒身分があり、山田家は当初徒の身分からスタートしている。山田家に残る系図によれば、初代孫兵衛は武兵衛の子である。なお、武兵衛そしてその父茂治郎の家は、その後ともに士身分に上昇し、明治維新時の当主はそれぞれ山田敬治・山田武八郎であることが、鳥取藩政資料中のそれぞれの家譜からわかる。それ以前の山田家についてははっきりしないが、先の系図には、先祖は小早川家の家臣と記されている。

初代孫兵衛は、延享元年（一七四四）、御帳奉行となっている。御帳奉行は、鳥取城御櫓において家老日記を記録する役職で、徒身分の中でも優秀な人材が登用される。御帳奉行からは、格式を取り立てられ士身分となる者が多いが、初代孫兵衛も宝暦八年（一七五八）九月に格式取立、御祐筆を命じられた。明和元年（一七六四）には御書役に役替えとなり、安永元年（一七七二）、老齢のため退役となったが、その後も健在で、寛政一一年（一七九九）三月、八七才で亡くなるまで山田家の当主であった。

二代左平太（後、孫兵衛）は、父の存命中の安永二年、御武台御中小姓加番となり、同四年に鶴五郎様（五代藩主池田重寛の長子治恕）御中小姓となり、しばらく江戸詰した。同九年、御槍奉行御弓奉行添役を勤めたが、天明元年（一七八一）治恕（孝得院）の逝去により御付きを免ぜられた。同二年六月御右筆を命ぜられ、寛政六年（一七九四）四月に御書役に転じた。文化一〇年（一八一三）六月、病気により御役御免となり、文政二年（一八一九）に亡くなっている。

三代恒蔵（後、平蔵）は、二代の実子で、文政二年一〇月家督を相続した（五〇俵六人扶持）。同六年御客番として詰江戸となり、斉衆様御表小姓を命ぜられた（池田斉衆は将軍徳川家斉の二二男で、鳥取池田家八代斉稷の養子となっていた）。同九年四月、斉衆の死去により御付きを免ぜられたが、九月池田斉訓（当時部屋住み）の御近習となった。天保元年（一八三〇）に免ぜられている。同八年八月晦日死去。

四代頼実（初名佐次郎・孫兵衛・孫一）は、家譜では三代恒蔵の実子とされるが、山田家に残る記録によれば、堀善六の三男となっている。堀家は、山田家の本家の親戚であり、幼少で養子となっていたため、藩では実子扱いとなったのであろうか。頼実は、天保八年一二月五才で家督を継ぎ（五〇俵六人扶持）、安政三年（一八五六）六月御小姓となり、文久二年（一八六二）六月御近習に進んだ。藩主池田慶徳の国事周旋が活発となり、臨時の上京が計画された同三年五月には、御側銃頭を命じられて一隊一六人をお預けとなり、六月上京の御供をしている。同年一

一月には御書懸りを兼ねた。元治元年（一八六四）四月には御側銃頭御刀番兼帯となり、五月には岡山・広島・萩・浜田の各藩主への使者を土肥謙蔵とともに務め、八月再び浜田・広島への使者を務めている。幕府の長州藩への出兵が始まると、藩主に供して米子に赴き、そこから浜田藩や当時広島の尾張藩徳川慶勝への使者を務め、さらに京都と米子の連絡に当たって、慶応元年（一八六五）正月に上京、一旦帰国後、四月に再び上京し、九月一時帰国後、すぐに上京を命じられ、一二月ようやく鳥取への帰国の暇を得た。翌二年四月に佐次郎から孫兵衛に改名。五月には、御小納戸に転役となり、翌三年一一月御目付役を命じられた。明治元年（一八六八）七月には役名改正に付き刑法奉行となった。同年一二月には武器奉行御軍式方頭取助役兼帯を命じられ、翌二年正月から二月、また三月に京都へ出張している。五月に病気により御役御免となった。九月には孫一と改名。版籍奉還後の一一月には少主簿分課会計局貨幣を命じられ、一二月権大主簿分課神務となり、さらに三年二月には当分少参事の御用向取扱を命じられた。四年二月神務局が政庁に合併されると、政庁出仕神務并布告取調懸りを命じられた。廃藩置県後、五年正月に免官となり、宇倍神社・大神山神社権宮司となった。三月には当時鳥取県に編入されていた隠岐国の戸籍社寺取調懸りを命じられている。その後の経歴ははっきりしないが、明治一一年末に鳥取士族によって設立された第八十二国立銀行の初代頭取を頼実は勤めている。頼実は、明治一六年三月、五一歳で没している。

以上のように、山田家は初代・二代が御右筆を勤め、四代頼実は御目付や鳥取藩少参事の要職を勤めている。禄高は、幕末期で五十俵六人扶持とさほど高くないが、実務派の官僚として活躍した家といえよう。

2　山田家資料について

「旧鳥取藩士山田家資料」三二一点は、その内容から以下の九項目に分類した。

Ⅰ　家
Ⅱ　役儀（御祐筆等関係）
Ⅲ　役儀（明治維新関係）
Ⅳ　武道・武具
Ⅴ　教養・教育
Ⅵ　諸家判物（花押コレクション）
Ⅶ　書軸
Ⅷ　写真
Ⅸ　歴史資料

Ⅰ　家は、山田家の奉公書（家筋書上、資料1－3）と身分・家督・職務に関わる資料（資料4－16）、巻子装された書状（資料17）、山田家の親類と思われる遠藤家に伝わったと思われる系図と中世文書（資料18・19）がある。

資料1は、山田新九郎幸長が藩に提出したものの控であろう。山田新九郎幸長は、鳥取藩士であるが、山田家とは別の家の人物である。山田家系譜によれば、初代孫兵衛の四代前に分かれた、いわば山田家の直系の家である。なぜ別の家の奉公書が残るかは不明であるが、先祖を同じくするものとして交流があったのであろう。資料2は、初代孫兵衛の本家武兵衛の奉公書である。資料3は初代孫兵衛の奉公書である。鳥取藩ではしばしば藩士各家に書上の提出を求めており、以上の資料は、その

際に作成されたものと思われる。なお、当館が所蔵する鳥取藩政資料の中に、藩士から提出された書上をもとに浄書された家譜（家筋書上）が残されており、先に紹介した「山田頼実家譜」などもその中に含まれるが、二代以後の書上は本資料の中には含まれていない。

資料4－16は、藩からの通達と、山田家が藩に差し出した誓詞・願書である。藩からの通達類は、本来は数多くあったはずであるが、家督・知行・要職の任免関係のみが残されたのであろうか、点数は多くない。

資料17は、四代頼実（佐次郎）が妻みつに宛てた手紙である。この手紙からは、当時の武家の婚姻のようすが窺え、興味深い資料である。すなわち、二人の婚姻は頼実の江戸詰中に行われたようで、頼実不在のまま、みつは山田家に入っている。当人同士は顔を合わせたこともないようで、頼実は「いまだおめもじも致し申さず候へども」と書き始めている。その後に、無事に輿入れが済んだことを喜び、母のことをよろしく頼むこと、里方へもよろしく伝えてほしい旨が簡潔に記されている。この手紙がわざわざ巻子装されていることは、二人にとって大切な手紙であったことを示しているのであろう。

資料18・19は、鳥取藩士遠藤家（明治初年の当主は遠藤恒）に関する資料である。「遠藤恒家譜」によれば、遠藤家は遠州を本国とし、後備前に移り浦上宗景に仕え、さらに宇喜多直家に仕え、宇喜多家没落後浪人したが、初代少庵が池田忠雄に医師として召し出され、その後池田家の鳥取移封によって鳥取に移り、廃藩まで鳥取藩士として存続した。山田家資料には他に遠藤家関係の資料は見えず、遠藤家と山田家との関係は明らかでないが、おそらく親類であろうか。この資料は、ある時点で遠藤家から山田家に移り、そのまま山田家に残ったものと思われる。19「浦上政宗文書六通」は、遠藤家が備前守護代浦上政宗から与えられた書状類を巻子装したもので、戦国期の備前に関わる新資料である。

Ⅱ　役儀（御祐筆等関係）　には、山田家歴代が職務のために記録あるいは筆写した資料である。ほとんどが、法令や儀式・行列の次第、作成する文書の例文集などを写したもので、実際の職務に関する記録はわずかである。職務を勤めるための基本的な知識としての必要から作成されたものと考えられる。

その中で、資料20は初代孫兵衛頼尚が、召し出されて以後亡くなるまで、自己の奉公について記録したもので、初代孫兵衛が関わった仕事が詳細にわかる。また、寛政七年（一七九五）八月に鳥取を襲った洪水について初代孫兵衛が書き留めたもの（28）、鳥取藩主池田慶行の死去の際に四代頼実が自己の行動を記録したもの（33）など、自己の行動や見聞を記録したものがあり、公式な記録からは窺えない個々の藩士の行動が具体的にわかり、興味深い資料である。

Ⅲ　役儀（明治維新関係）　は、幕末から明治維新の時期に、各地への使者、そして御目付の要職を勤めた四代頼実が残した資料である。とりわけ、頼実は安政三年（一八五六）六月御小姓となってから明治三年（一八七〇）に至るまで、職務に関する日記を書き続けており（資料83－99）、本資料中の中心となる資料である。

頼実は、文久三年（一八六三）の藩主池田慶徳の国事周旋のための上京に近習として同行し、この頃から藩主の信頼を得たようで、同年一一月には御書懸りとなり、翌年には御側銃頭を命じられ藩主の側近に仕えた。禁門の変前後には、中国地方の大藩へ使者として派遣され、他藩との交渉に当たっている。幕末の鳥取藩では、尊王攘夷派といわゆる守旧派の対立があり、禁門の変後に起こった御目付堀庄次郎暗殺を契機に、藩内の尊王攘夷派は要職から退けられているが、頼実はその後も職を続

けており、尊攘派とは一線を画していたことが窺える。ただし、資料104に見えるように、尊攘派の中心人物の一人である安達清一郎との交流があり、また使者を命じられた時には尊攘派の門脇重綾や土肥謙蔵と同行していること、維新後に因幡一宮宇倍神社の権宮司を勤めていることなど、尊攘派に近い人物と言えよう。頼実の日記は、自己の職務に関する行動・藩からの通達などが記されているが、私的な行動や感想は見られない。したがって、頼実自身の考えや藩内の人間関係などはわかりにくいが、尊攘派が藩中枢から退けられた後に藩政の実務を行った頼実の日記は、尊攘派にも守旧派にも与しない、もう一つの鳥取藩士像を伝えている。

日記の他には、各地の風聞や重要書類の写など、こまめに記録したもの（資料100－138）があり、頼実の関心の在り方が窺える。また、資料139－173、174－187は、括られて保存されていた職務上の通達やメモ類であるが、この中には戊辰戦争に従軍し帰国した宮脇・佐分利両隊が、病気と称して登城せずそのまま解隊した事件についての一件書類が含まれている。資料188－198は、頼実が神務局に関わり、さらに宇部神社権宮司となって以降の資料である。

Ⅳ　武道・武具　には、山田家歴代が与えられた武道の伝書や、武器の図である。御右筆など「文」の色彩が強い山田家であるが、当然ながら武道にも熱心であったようで、弓・棒・剣・馬の伝書が残されている。この他にも多数の伝書類が残されていたようであるが、現在は資料の中には含まれていない。

Ⅴ　教養・教育　としたものは、さまざまな書類の写本類である。内容は、東照宮徳川家康の遺訓（226・227）など武家としての心得に関するもの、軍記物や諸国の逸話集、さらに和歌・連歌・算術に関するものなど広範囲に及んでいる。しかし、とくにまとまっている分野はなく、一般的な教養として筆写されたものであろう。

Ⅵ　諸家判物（花押コレクション）　は、山田家資料の特色ある資料群である。大名等の花押が据えられた文書（資料258－278）と、文書から花押部分を切り取ったもの（資料282）があるが、文書自体は直接山田家に関わるものではなく、山田家の誰かが、コレクションとしてさまざまな花押を集めたものと思われる。コレクションの目的は、資料中に「実」の文字をくずした花押（書判、資料280）があることから、四代頼実が自らの書判を考えるための資料として収集したことが想定されるが、はっきりしない。

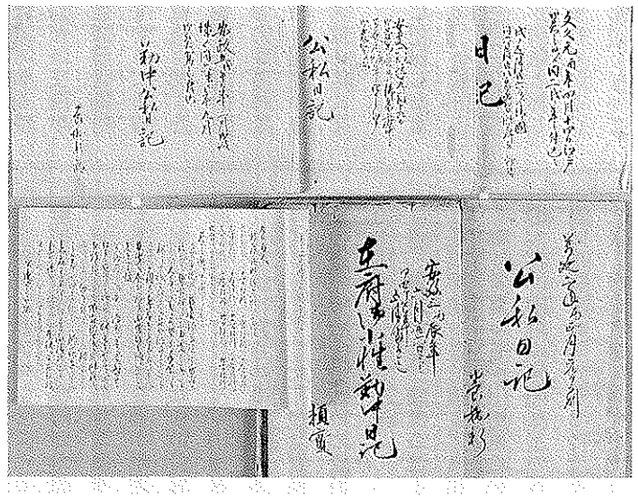
Ⅶ　書軸　は、最後の藩主池田慶徳の子で、慶徳の没後池田家を継いだ池田輝知の書二幅と、名和長年顕彰碑の拓本を軸装したものである。

Ⅷ　写真　も、山田家の特色ある資料の一つである。明治期の天皇・旧大名・維新の元勲などの写真があり、池田家に関わる289・290を除いて、当時市販されていたものであろうか。

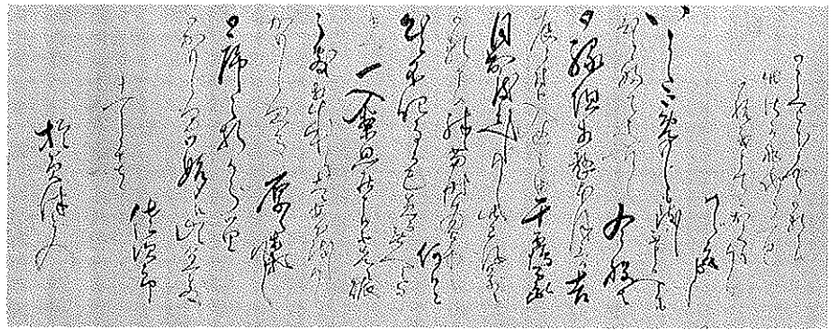
Ⅸ　歴史資料　は、いずれも藩主池田家に関するものである。池田家からの拝領品であろう。

Ⅲ 資料写真

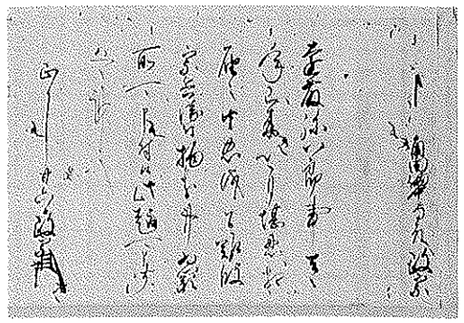
20　忠勤日記　山田頼尚



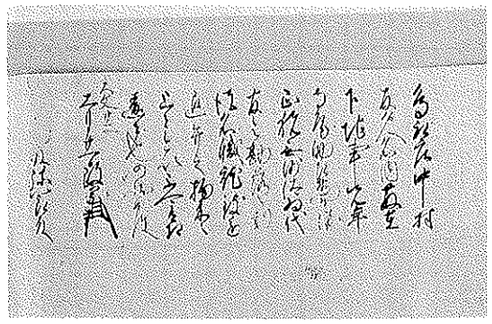
82－99　山田頼実公私日記



17　山田佐次郎書状　おみつ宛

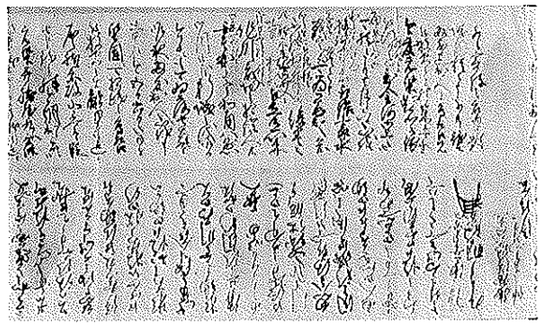


19　浦上政宗文書六通のうち
1　浦上政宗書状

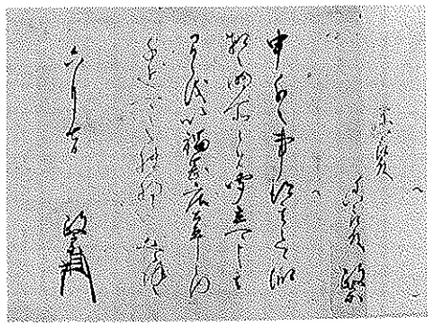


同右　4　浦上政宗下知状

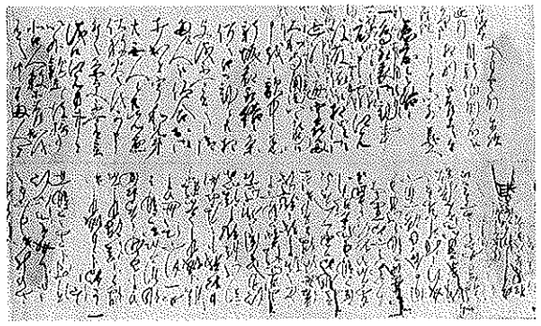
同上　2　浦上政宗下知状



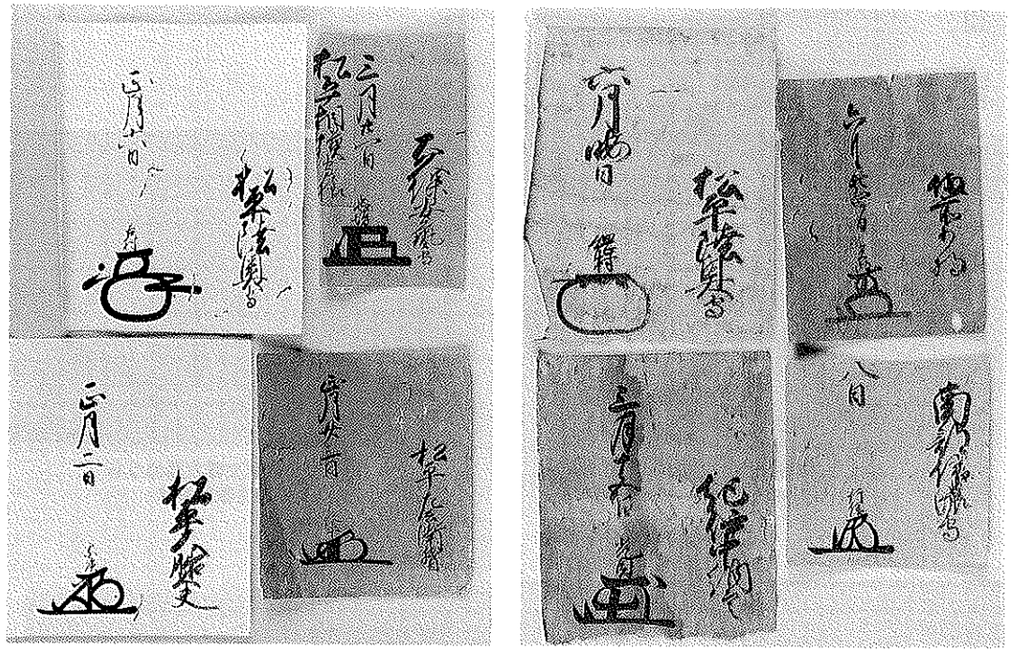
同上　5　浦上政宗書状



同上　3　浦上政宗書状

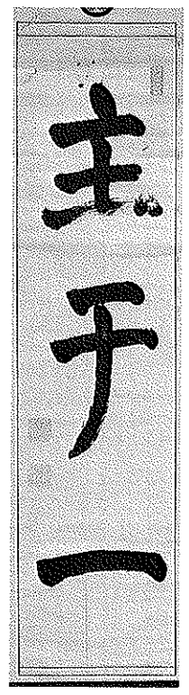


同上　6　浦上政宗書状

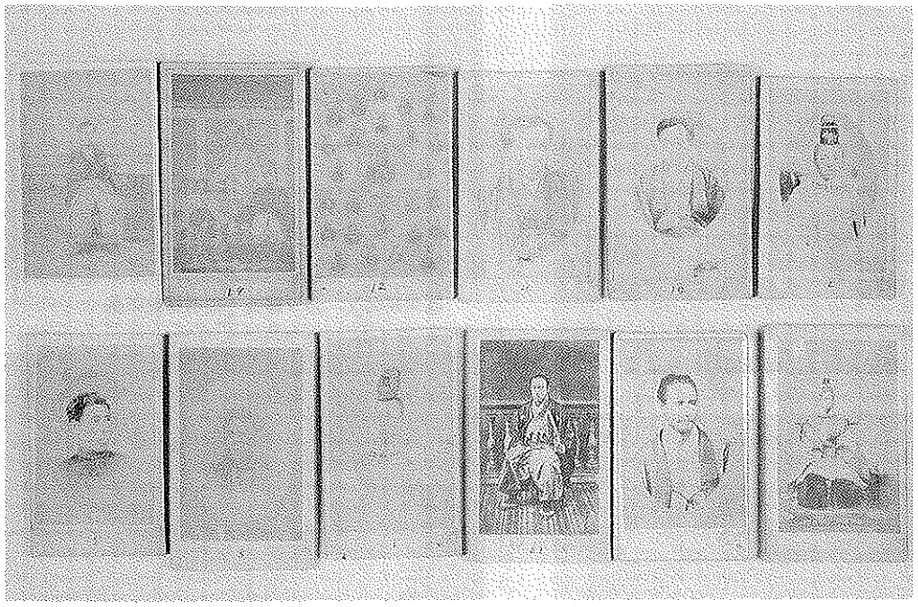


282 〔書判切抜一括〕のうち

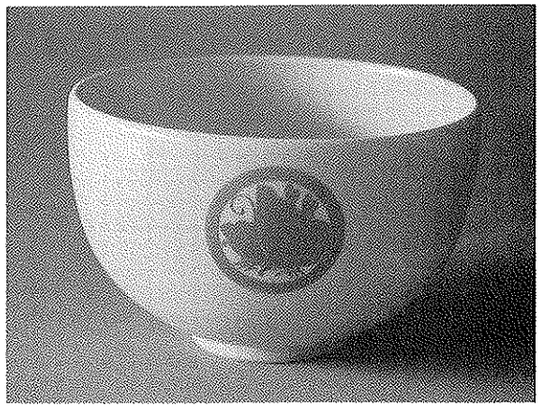
287　池田輝知一行書



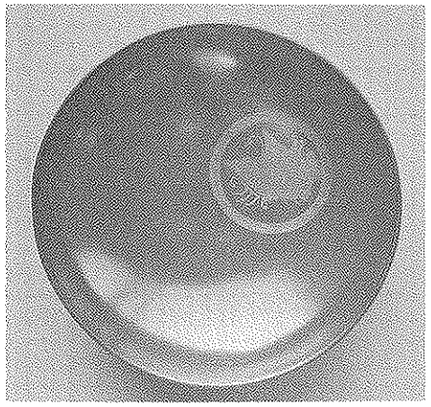
286　池田輝知一行書



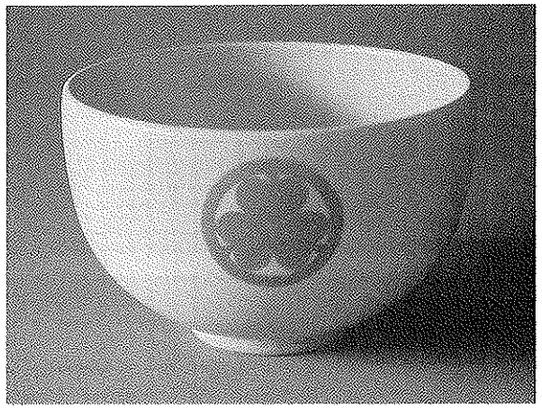
289－315　肖像写真



歴史資料２　三ツ葉葵・揚羽蝶紋茶碗

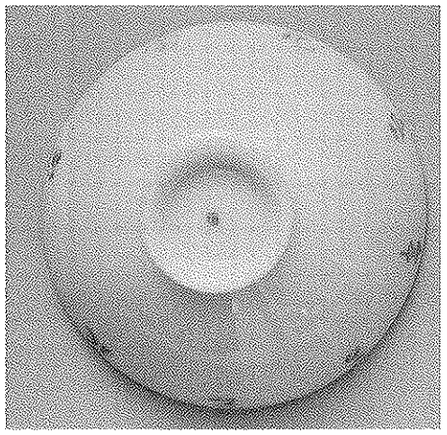


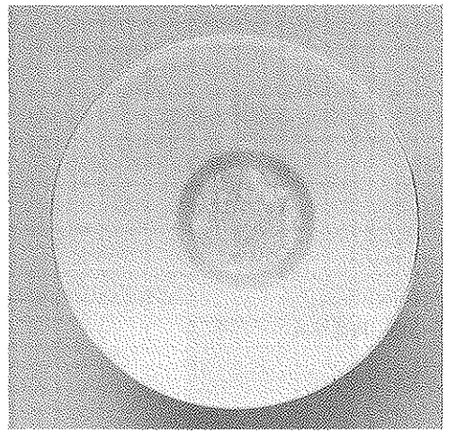
歴史資料３　揚羽蝶紋付朱塗盃



同上　別角度より

歴史資料４　揚羽蝶寿字蒔絵朱塗盃





歴史資料５　揚羽蝶紋盃（藩祖三百年祭記念）

あとがき

「旧鳥取藩士山田家資料」は、平成五年一月に大阪市在住の山田美代子氏より当館が寄贈を受けた資料群である。寄贈者の山田氏は、山田家の四代頼実の孫頼夫氏の夫人である。貴重な資料を御寄贈いただいた山田氏に改めて感謝申し上げる次第である。

資料の点数も多く、また多岐にわたっていることもあって、それぞれについて十分な調査を行っていないが、とりあえず報告書を刊行して多くの人に利用いただき、本資料についての調査研究をさらに進めたいものと考えている。

なお、目録の作成および本報告書は執筆は、学芸課人文係学芸員坂本敬司が行った。

平成六年度
資料調査報告書　第二十二集
――旧鳥取藩士山田家資料――
平成七年三月三十一日　発行
鳥取県立博物館
鳥取市東町二丁目一二四
電話　〇八五七―二六―八〇四二